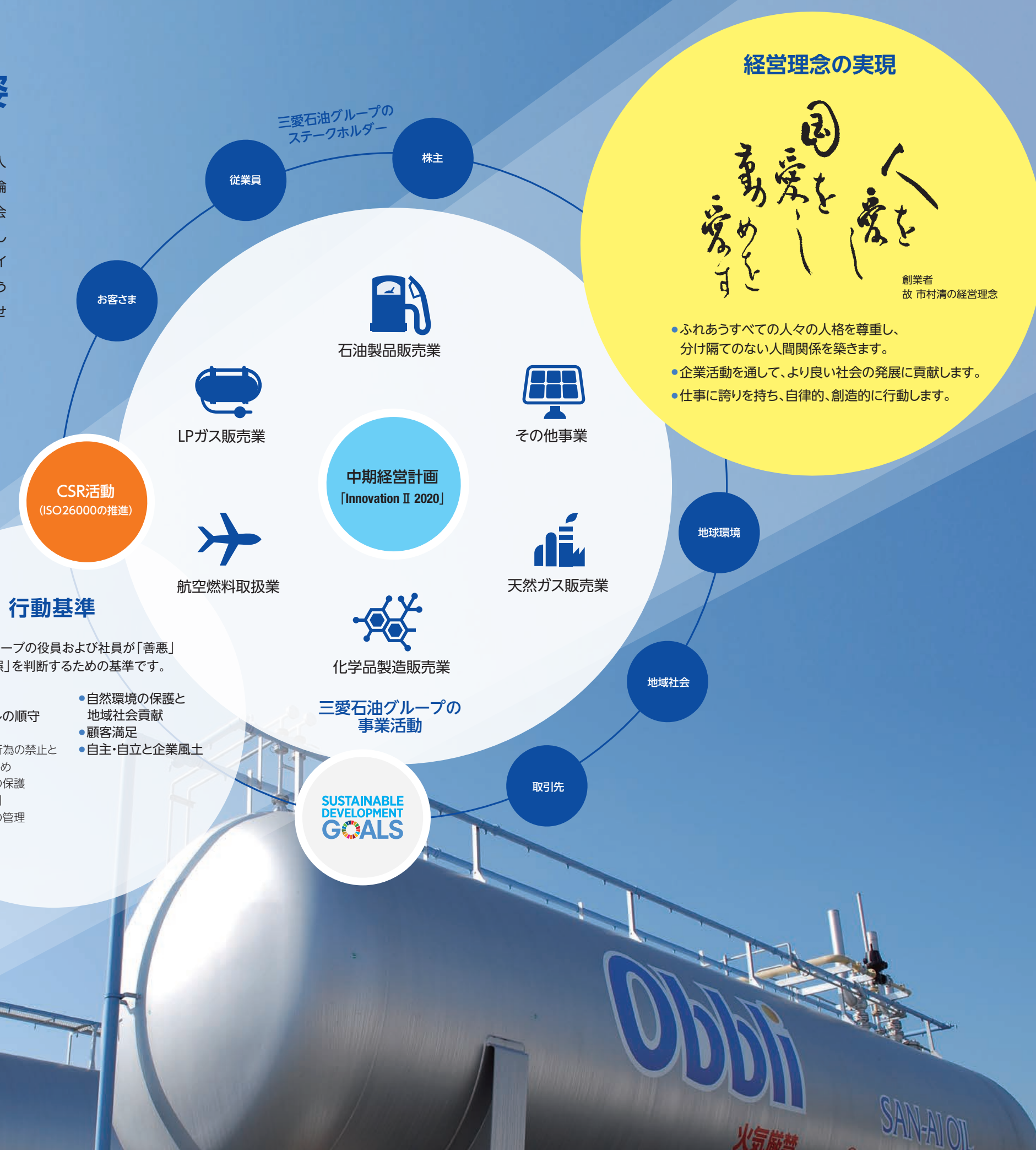


三愛石油グループ
CSR報告書
2019



考え方と目指す姿

三愛石油グループは、経営理念である三愛精神「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」を軸に2007年倫理行動憲章を制定し、グループ全体でより良い社会の発展に貢献することを目指してまいりました。そして2016年度からは、社会的責任に関する国際ガイドラインISO26000を活用し、客観的な分析を行うことでグループのCSR活動をさらに深化・発展させています。



CONTENTS

- 01 考え方と目指す姿
- 03 トップコミットメント
- 05 三愛石油グループの概要

三愛石油グループのCSR

- 07 CSR活動の総括と今後の重点課題
- 09 CSR重点課題への取り組み

特集

- 11 天然ガス事業のバリューチェーン

ISO26000に沿った活動報告

- 13 組織統治
- 16 人権
- 17 労働慣行
- 20 環境
- 23 公正な事業慣行
- 25 消費者課題
- 27 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展
- 29 三愛石油グループのデータハイライト
- 31 第三者意見



代表取締役会長
金田 準

三愛精神をもとに 新しい価値を生み、企業の使命を果たす

三愛精神を理解し、誠実に使命を果たす

当社の社員は三愛精神に則った、真面目で正直な社員が多いと私は感じています。これこそがコーポレート・ガバナンスの原点であり、これが浸透しているからこそ、環境が変化しても誠実に自社の使命を果たし前進することができたのだと思います。

昨今、ガバナンスといった型はあるものの、そこに魂がないケースが多く見受けられます。基本的な部分は人材育成などを通して、着実に積み重ねていかなければ自分たちの真の使命を果たせないと考えています。そういった意味でもこの三愛精神というのは当社の事業遂行における軸になるものだと思います。

“三愛石油だからできる”を通して社会に価値を

当社は販売会社として多様なエネルギーに対応することが社会のニーズに応えることだと思います。

特に、自然災害の際にはエネルギーが必要となります。そういった際に当社は迅速に対応できる機動力があります。非常時でも必要なエネルギーを安定的に届けることは私たちの使命だと強く感じます。

また、当社はこれまで、航空業界の給油事業、施設管理事業を強みとして事業を進めてきました。航空機に関わるみなさまの安全・安心を当社の高い技術力・人材力が支えているととらえ、航空業界の安定と発展を担う一翼であるという強い使命感を持って取り組んでいます。

人材育成が当社の基盤

当社の価値創造を支えるのは社員一人ひとりです。新しい価値を社会に提供するためには社員が“お客さまのため”ではなく、“お客さまの立場に立つ”ということが重要です。そのうえで広い視野を持ってニーズに応えていかなければなりません。だからこそ、社員には社外に目を向けて学んでほしいと思います。

2018年度からは英会話教室をスタートし、2019年7月には3回目となる「女性社員フォーラム」を開催しました。さまざまな取り組みを通して、自ら考え、判断し、行動できる自律型の社員を輩出したいと考えています。そして、社員自らがイノベーションを起こして新しい価値を生み出し、さらなる当社の成長・発展を実現していきます。



代表取締役社長
塚原 由紀夫

10年先を見据えて 変化をとらえ、人々の生活を支え続ける

安定供給の使命を果たし、持続的な成長へ

2018年度から、中期経営計画「Innovation II 2020—これからの環境変化に向けて—」がスタートしました。10年先を見据え、事業環境の変化を的確にとらえ、迅速に対応することで、基幹事業を強化・拡大する「行動の時」と位置付けています。

2020年の訪日外国人旅行者数目標は4,000万人といわれています。航空燃料の需要拡大に対応し、安全操業を維持するため、羽田空港では給油施設の増設などインフラ整備を行い、給油作業を担う人材の育成に注力しています。また、石油・ガス関連事業では、石油元売り再編や電力・都市ガスの小売自由化によって経営環境は大きく変化しています。

10年先を見据え、この変化に機敏に対応しながら、グループ一体となって持続的な成長と企業価値の向上を図ります。

当社グループは、石油・ガス・航空関連事業など、人々の生活を支える公共的な事業を担っています。安定供給を第一義としながら、昨今の企業経営の指針の一つでもある、SDGsへの取り組みも進め、三愛精神の実現を果たしたいと考えます。

社員一人ひとりが活躍できる会社に

重要課題として掲げてきた項目についてご報告いたします。「車両事故撲滅の取り組み」については、講習会や運転技術診断を実施し、安全運転への意識向上を図りました。「コンプライアンス意識の向上」については、管理監督者向けの研修会や、グループ会社経営層対象のダイバーシティマネジメントセミナーを開催しました。また、女性活躍推進については、大学のビジネスプログラムや通塾型セミナーなど、女性社員のキャリアアップを支援する体制を整えたほか、三愛石油㈱で開催している女性社員フォーラムを、グループ各社へも展開する計画です。社員一人ひとりが事業の担い手として、十分に能力を発揮できる職場環境を作り、多様性のある開かれた企業グループを目指します。

事業活動を通して、社会に貢献する

当社グループは今後も、事業活動を通して社会的責任を果たし、顧客満足・従業員満足・環境負荷低減などに尽力し、社会の持続的発展に貢献いたします。引き続き、ご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。本報告書につきましても、ぜひ忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

CSR活動の総括と今後の重点課題

三愛石油グループは、経営理念である三愛精神「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」を軸に2007年、倫理行動憲章を制定しグループ全体でより良い社会の発展に貢献することを目指してまいりました。

そして、2016年度から社会的責任に関する国際ガイドラインISO26000を活用し客観的な分析を行うことで、グループのCSR活動をさらに深化・発展させるとともに、当社グループにおけるさまざまな課題を踏まえ、CSR重点課題を設定し、解決に向け取り組んでまいります。

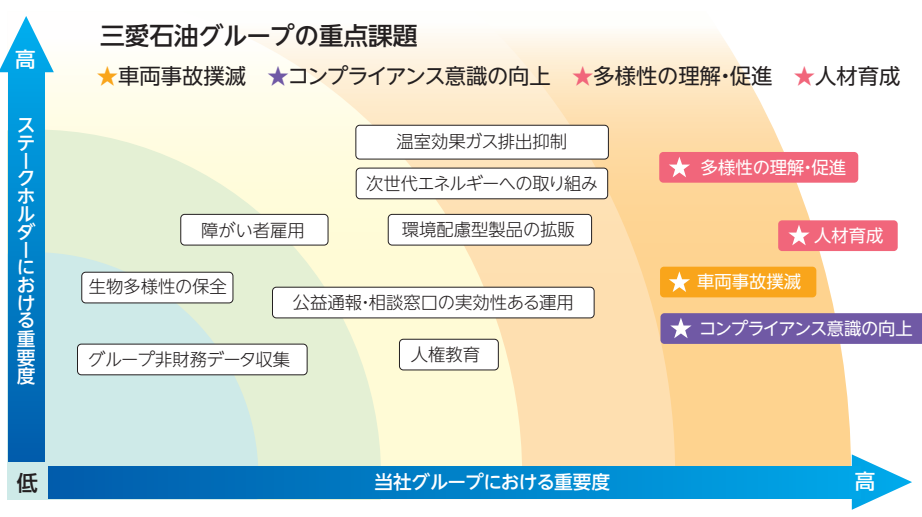
ISO26000とは	社会的責任に関する手引(Guidance on social responsibility)として、2010年11月に正式発行されました。社会的責任への関心が高まる中で、世界中のあらゆる組織がステークホルダーとの対話を通して効果的に社会的責任を果たすための共通テキストとして活用されています。
SDGsとは	2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」は、2030年に向けて解決すべき世界の課題(17の目標、169のターゲット)で構成された世界共通の目標です。

ISO26000 7つの領域(中核主題)	ISO26000の課題	2018年度活動実績			今後の課題	関連するSDGs
組織統治 P13～15	① 組織統治	● 取締役会 ● 監査役会 ● 内部統制委員会	● コーポレートガバナンス・コード開示 ● 決算担当者向け決算実務説明会 ● CSR報告書を読む会	● CSR委員会 ● 危機管理委員会 ● 倫理に関する「誓約書」提出(全グループ)	● グループ全体の非財務データ収集	 
人権 P16	② デューディリジェンス ③ 人権に関する危機的状況 ④ 加担の回避 ⑤ 苦情解決 ⑥ 差別及び社会的弱者 ⑦ 市民的及び政治的権利 ⑧ 経済的、社会的及び文化的権利 ⑨ 労働における基本的原則及び権利	● 倫理委員会 ● 公益通報・相談窓口の運用	● LGBT人権教育 ● 障がい者雇用	● ハラスメント防止教育 ● ダイバーシティ・マネジメント研修	● 人権教育 ● 公益通報・相談窓口の実効性ある運用 ● 障がい者雇用	 
労働慣行 P17～19	⑩ 雇用及び雇用関係 ⑪ 労働条件及び社会的保護 ⑫ 社会対話 ⑬ 労働における安全衛生 ⑭ 職場における人材育成及び訓練	● 各種研修 ● 国内留学制度 ● 健康経営の推進 ● 定年再雇用制度の充実 ● マネジメントフォーラム ● 女性社員フォーラム	● 産業医、保健師による健康相談 ● 禁煙活動 ● 有給休暇取得の推進 ● 健康診断の再検査義務化、ストレスチェック ● リスクアセスメント	● 育児・介護休業法改正への対応 ● 女性活躍推進法に基づく行動計画の実行 ● 安全運転講習 ● 年金ライフプランセミナー	★ 多様性の理解・促進 (多様な人材が活躍する風土づくり) ★ 人材育成	   
環境 P20～22	⑮ 汚染の予防 ⑯ 持続可能な資源の利用 ⑰ 気候変動の緩和及び気候変動への適応 ⑱ 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	● 「三愛石油オプリの森」体験型環境研修 ● 環境安全委員会 ● 環境安全監査 ● ISO14001認証継続 ● 省エネルギー診断 ● ノンフロンガス製造販売	● スマートエネルギーショップ ● 節電活動 ● ノー残業デー ● 遊休地における太陽光発電事業 ● 環境配慮型製品の販売 ● 雨水の利用(羽田支社) ● 温室効果ガス排出抑制	● PRTR法に該当しない商品の製造販売 ● 化学物質の適正管理 ● 環境負荷データの集計(全グループ) ● 工場、SSからの排水管理 ● SSにおける「ECO通気口」の設置 ● 風力発電システムへの貢献 ● パイオガス発電システムへの貢献	● 温室効果ガス排出抑制 ● 生物多様性の保全 ● 環境配慮型製品の拡販 ● 次世代エネルギーへの取り組み	   
公正な事業慣行 P23～24	⑲ 汚職防止 ⑳ 責任ある政治的関与 ㉑ 公正な競争 ㉒ バリューチェーンにおける社会的責任の推進 ㉓ 財産権の尊重	● 内部監査 ● 倫理委員会 ● 倫理ニュースの発行 ● 倫理に関する「誓約書」提出(全グループ)	● コンプライアンス意識行動調査の実施 ● コンプライアンス教育の実施 ● ガス保安技術会議 ● ガス保安ドック、ガス保安研修	● ガス「Obbliヘッドライン」の発行 ● 石油SS施設安全点検の実施 ● 環境安全監査	● 公益通報・相談窓口の実効性ある運用 ★ コンプライアンス意識の向上 (倫理行動憲章の徹底)	 
消費者課題 P25～26	㉔ 公正なマーケティング、事実即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 ㉕ 消費者の安全衛生の保護 ㉖ 持続可能な消費 ㉗ 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 ㉘ 消費者データ保護及びプライバシー ㉙ 必要不可欠なサービスへのアクセス ㉚ 教育及び意識向上	● 個人情報管理委員会 ● 個人情報取り扱いの自主監査 ● 品質保証委員会 ● LPガス配送技能コンテスト ● 給油作業安全審査会(羽田支社)	● 接客サービスコンテスト ● 石油・ガス特約店会議 ● ガスお客さま感謝祭 ● 自然災害への訓練と対応 ● ガス成功事例発表会	● 特約店および消費者向け情報誌の発行(「GAS PRESS NOW!」「Obbli」など) ● 次世代自動車最新技術研修 ● 防腐・防カビ剤の開発・販売によるVOC排出量低減	● 次世代エネルギーへの取り組み	 
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 P27～28	㉛ コミュニティへの参画 ㉜ 教育及び文化 ㉝ 雇用創出及び技能開発 ㉞ 技術の開発及び技術へのアクセス ㉟ 富及び所得の創出 ㊱ 健康 ㊲ 社会的投資	● 大規模災害時における航空燃料の供給に関する協定(三愛アビエーションサービス(株)) ● 災害時における燃料油の確保に関する協定(需給部) ● JCCP国際石油・ガス協力機関研修受け入れ(羽田支社)	● 「大井どんたく夏まつり」への協賛 ● よさこい祭り地方車「本山さくら」への協賛(三愛石油カスタマーサービス(株)) ● 「オブリ杯バレーボール大会」への協賛 ● 地域の清掃活動への参加 ● 学生インターンシップ ● 市村自然塾 関東・九州の活動協賛	● 佐賀工業専門学校との教育連携 ● 震災対応SS ● 高知市子どもまちづくり基金への協力(三愛石油カスタマーサービス(株)) ● ボランティア活動(羽田支社) ● 佐賀大学熱気球部の活動支援 ● 少年サッカー「オブリ杯」への協賛 ● 安全運転教育の実施	★ 車両事故撲滅	   

★重点課題への取り組みを次ページで報告しています。

CSR重点課題への取り組み(2018年度・報告)

三愛石油(株)CSR推進部では、ISO26000に基づき「今後の課題」を抽出し、ステークホルダーと当社にとって重要かつ優先的に解決すべき課題を3つ特定し、重点課題として取り組んできました。2018年度の活動を報告します。

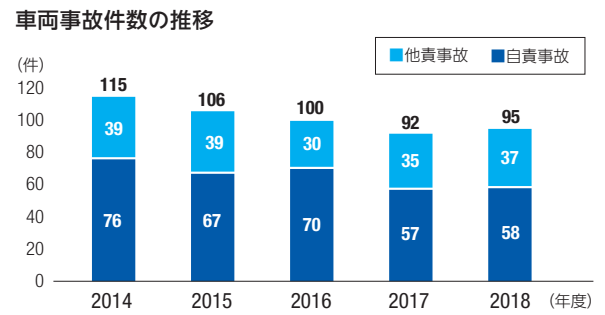


2019年度の重点課題

三愛石油(株)CSR推進部では、2017年度に特定した3つの重点課題について、2019年度以降も継続して取り組み、成果を求めています。

1 車両事故撲滅

2018年度の車両事故件数は、前年度より3件多い95件となりました。内訳は、自責事故が前年度比1件増加、他責事故は2件増加となっています。2019年度は、車両事故撲滅への取り組みをさらに強化し、成果を求めています。



TOPICS

社員一人ひとりが安全運転への意識を高め、運転スキルを習得するため、2018年度は以下の取り組みを実施しました。

認定者による同乗指導

車両管理責任者が営業車両に同乗し、チェック項目に基づいて運転を評価しています。これまでは対象者を事故惹起者に限定していましたが、2018年度はガス関連会社6社の全社員を対象に実施しました。

認定者による同乗指導

462名

事故惹起者への教育

事故惹起者に対して再発防止のために社外での講習(実車教習、危機察知力養成、安全確認ポイント指導)を実施し、安全運転への意識醸成に取り組んでいます。

事故惹起者への指導

43名

車両安全運転表彰キャンペーン

危機管理委員会では2016年7月より、LPガス配送会社4社を対象に「無事故・無違反運転者」と「車両事故撲滅の優れた取り組みを行った事業所」を表彰するキャンペーンを実施しています。2019年7月、マネジメントフォーラムにて、キャンペーン開始より3年間無事故・無違反を継続した運転者82名へ「ブロンズ賞」が授与されました。

3年間無事故・無違反

82名

2 コンプライアンス意識の向上

安定的な企業活動を行ううえで、コンプライアンスは基盤となります。倫理委員会を中心に「三愛石油グループの倫理行動憲章」を周知徹底させることでコンプライアンス経営の強化を図ります。

倫理ニュースの発行

倫理委員会では、毎月「倫理ニュース」を発行し、不祥事の事例や法令順守の大切さ、ハラスメントなどの題材に触れ、啓蒙活動を行っています。

社員の声

- 改めて倫理行動憲章、パワハラなどのハラスメントについて認識する良い機会となりました。今後とも、倫理ニュースを熟読し、働きがいのある職場環境作りに貢献していきます。
- コンプライアンス教育で、機密文書を取り扱う際のパスワード設定について学習し、個人情報や機密情報が漏えいしてからでは取り返しがつかなくなることを再認識しました。

公益通報・相談窓口

不正行為などの早期発見と是正、コンプライアンス経営の強化を目的とし、公益通報・相談窓口(内部通報窓口)を設置しています。

また、三愛石油グループでは「公益通報者の保護に関するガイドライン」を制定し、通報者が不利益な取り扱いを受けないよう徹底しています。

コンプライアンス教育の実施

毎年11月にコンプライアンス教育を実施しています。2018年度は前年度受講者1,233名を上回る1,266名が受講しました。

2018年度受講者

1,266名

3 多様性の理解・促進、人材育成

三愛石油グループが持続的に成長し続けるためには、多様な人材が活躍し事業活動を発展させることが必要です。2018年度のいきいきと働くことのできる職場づくりに向けた取り組みは以下の通りです。

女性活躍推進への取り組み

第3回女性社員フォーラム開催

2019年7月17日

40名参加

ハラスメント研修会

本社、羽田支社で実施

91名参加

再雇用嘱託社員

2019年4月1日現在

31名

ダイバーシティ・マネジメント研修

3回開催

96名参加

天然ガス事業のバリューチェーン

パイプライン供給

三菱石油(株)は、福岡県久留米市から佐賀県佐賀市まで、約30kmの天然ガスパイプラインを敷設し、都市ガス事業および近隣の産業用大口需要家へ天然ガスを安定的に供給しています。



保安センター

安定供給への取り組み

三菱石油(株)では、佐賀県佐賀市にパイプラインの圧力、流量等を監視する保安センターを設置しており、365日24時間体制でお客さまの安全を守っています。

また、定期的パイプライン沿線をパトロールすることで、敷設状況の確認、保安設備の維持管理等の安全点検、予防保全を行うことにより、安定供給に取り組んでいます。



パトロールの様子



緊急保安車両

関連するSDGs



- パイプライン供給およびLNG供給によるエネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保
- オンサイトエネルギーサービスによるエネルギーの効率化を実現

合同防災訓練

三菱石油(株)が所有するパイプラインへは、福岡県北九州市にあるLNG基地より他社パイプラインを経由し、天然ガスが供給されています。このパイプライン沿線では、複数のガス会社が事業を行っているため、ひとたび事故や災害が起こると各社が連携して対応する必要があります。

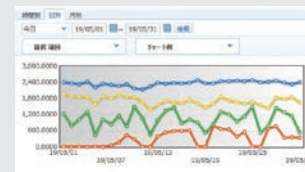
そこで、沿線事業者8社による合同防災訓練を定期的に行うことで、万が一の非常時にも対応できるよう取り組んでいます。



合同防災訓練

ガスメーター遠隔監視サービス

三菱石油(株)では、お客さまサービス向上のため、ガスメーターの遠隔監視サービスを始めました。これによりお客様へのガスのご使用方法のアドバイスや省エネのご提案などに取り組んでいます。



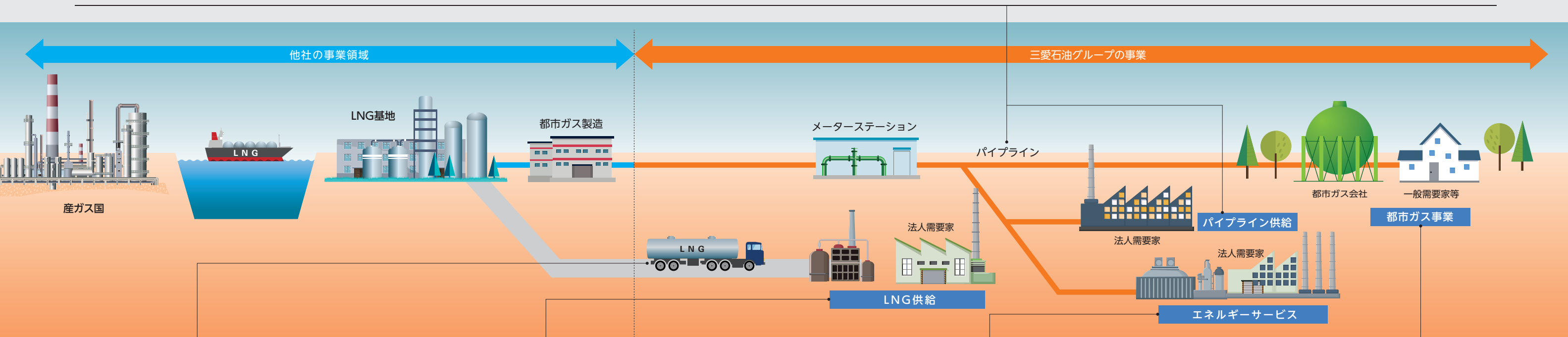
VOICE

ステークホルダーの声

三菱石油(株)のみなさまには、定期的に点検を行っていただいているため、安心してガスを使用でき、安定的な生産活動ができています。今後も安全かつ安定的なガス供給にご尽力いただけますようよろしくお願いします。



(株)ニチノサービス
古賀 明 様



物流業務(受発注)

三菱石油(株)では、全国の取引先からLNGのオーダーを受注し、LNG基地への発注を行っています。



LNG(液化天然ガス)供給

パイプラインが敷設されていないエリアでは、LNGで供給することで、お客さまの環境負荷低減に貢献しています。



LNGサテライト設備



LNG受け入れ作業



LNG加圧蒸発器

エネルギーサービス

お客さまの敷地内に燃料供給設備、ボイラ設備、発電設備等を設置し、お客さまのニーズに合わせたエネルギーを安定供給しています。また、三菱石油(株)が運転管理を24時間体制で行うことにより、エネルギー効率向上と環境負荷低減に貢献しています。



ガスコージェネレーションシステム



空調設備の点検の様子

都市ガス事業

三菱石油グループの佐賀ガス(株)は、地域にお住まいのお客さまから店舗、学校などの業務用および大口需要家まで、環境に優しいフリーなエネルギー“天然ガス”をお届けしています。また、ガス展や料理教室などを通して、地域住民のみなさまとのふれあいを大切にし、ガスの利用について理解を深めていただいています。



ガスホルダー



料理教室の様子

組織統治

経営の効率性と透明性の向上に努め、
コンプライアンス経営に徹します。
また、業務の適正を確保するための体制を整備し、
危険物を取り扱う企業として危機管理と
事業継続計画の強化に努めます。

関連するSDGs



- 危機管理委員会による車両事故撲滅の取り組み
- 内部統制委員会による財務報告にかかる内部統制の整備・運用

内部統制基本方針

三愛石油(株)は会社法および会社法施行規則に基づき業務の適正を確保するための体制について9つの項目で整備しています。

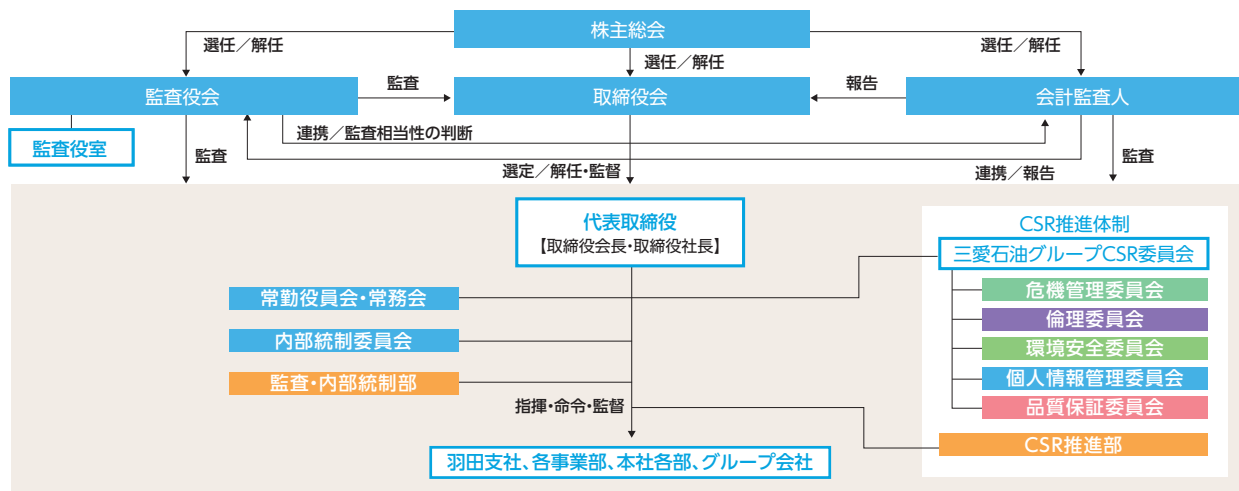
1. 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する事項
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制ならびにその使用人の取締役からの独立性、および当該使用人に対する指示の実効性確保に関する事項
7. 取締役および使用人が監査役に報告するための体制ならびに子会社の取締役、監査役および使用人が親会社の監査役に報告するための体制、また報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制、および監査役の職務の執行について生ずる費用の処理に係る方針
9. 反社会的勢力を排除するための体制

全文は弊社ホームページをご覧ください ▶ <http://www.san-ai-oil.co.jp/csr/regulation/>

コーポレート・ガバナンス

当社グループでは実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制を構築し、その仕組みを重層的に運用することで業務の適正を確保しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



重要会議の開催状況	2018 年度
取締役会	9 回
監査役会	9 回
常勤役員会	18 回
常務会	47 回
内部統制委員会	5 回
三愛石油グループ CSR 委員会	4 回
危機管理委員会	4 回
倫理委員会	12 回
環境安全委員会	5 回
個人情報管理委員会	4 回
品質保証委員会	5 回

取締役会の実効性評価

三愛石油グループでは、取締役会が適正に機能しているかを定期的に検証し、課題の抽出および改善の取り組みを継続しています。詳細は、コーポレート・ガバナンス報告書にて開示しています。

会計監査人

会計監査人は当社に対し独立の立場を保持しながら、監査役と緊張感のある協力関係のもとで、財務報告の信頼性を確保すべく監査の有効性および効率性の向上に努めています。

社外取締役および社外監査役

社外取締役は、多様な知見・経験を活かして業務の執行に対し意見を述べ、重要な決定プロセスに関わっています。
また社外監査役は、取締役の職務の執行状況を把握するとともに、会計監査の適法性および財産の状況を公正な立場で調査しています。いずれの社外役員も東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定されています。

コーポレートガバナンス・コード

三愛石油(株)は2019年7月、東京証券取引所にコーポレート・ガバナンス報告書を提出し情報開示をいたしました。

▶ <http://www.san-ai-oil.co.jp/csr/governance/>

役員一覧(2019年9月1日現在)

取締役



金田 準
代表取締役会長



塚原 由紀夫
代表取締役社長



山下 奉信
専務取締役
エネルギーソリューション事業部門担当
エネルギーソリューション事業部長 兼
化学品事業部門担当
化学品事業部長



早川 智之
常務取締役
羽田支社担当
羽田支社長 兼
空港関連対策室長



大沼 尚人
常務取締役
経理部
経営企画部
情報システム部担当



大久保 宏次
取締役
ガス事業部門担当
ガス事業部長 兼
ガス販売部長



志村 一郎
取締役
石油事業部門担当
石油事業部長 兼
卸売販売部長 兼
需給部担当



佐藤 孝志
取締役
人事総務部・法務審査部
CSR推進部担当
人事総務部長 兼 CSR推進部長 兼
PL推進室長

監査役



水谷 知彦
常勤監査役



隼田 洋
常勤監査役

社外取締役

高橋 朋敬
取締役

鵜瀬 恵子
取締役

中川 洋
取締役

社外監査役

長崎 武彦
監査役

河野 博文
監査役

豊泉 貴太郎
監査役

リスクマネジメント

消防組合との合同訓練を実施 需給部 東京オイルターミナル

2018年11月、東京オイルターミナルで、船舶から配管を通し屋外タンク貯蔵所に危険物を移送中、地震により配管からガソリンが漏えいし出火したとの想定で、草加八潮消防組合との合同訓練を実施しました。訓練では、自衛消防隊による通報、消火活動および消防からの緊急使用停止命令の



自衛消防隊による放水訓練

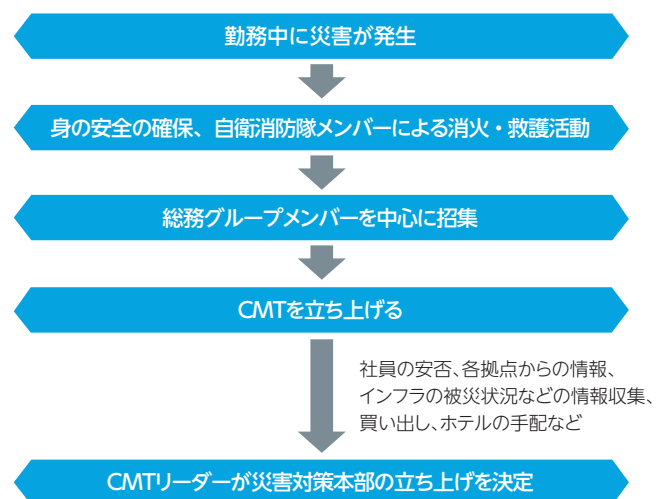
発令を行い、実際の災害を想定した初動対応の確認を行いました。燃料流出防止用の土のう積みを行う際には、自衛消防隊と連携して作業にあたり、連携活動の重要性を再認識しました。



燃料漏えい防止用の土のう積み訓練

BCP初動対応訓練 キグナス石油(株)

2018年10月、BCP対策の一環としてCMT訓練を行いました。CMTは、Crisis Management Teamの略で、災害対策本部事務局を指します。CMT訓練とは、発災から災害対策本部立ち上げまでの一連の行動を訓練するもので、勤務中に大地震などの災害が発生した場合を想定し実施しました。さらに今回は、CMTリーダーである総務統括部長が不在という設定で訓練を行い、自衛消防隊を中心としたメンバーによる消火活動や救護活動、CMTメンバーによる安否確認や被災状況の情報収集、買い出しやホテルの手配など一連の行動を確認しました。



Voice

社員の声

キグナス石油(株)
管理部
倉持 信哉さん



CMT訓練の様子

今回の訓練では、本来のCMTリーダーである総務統括部長が不在であるという想定で、私がCMTリーダーを務めました。各CMTメンバーに指示を取りまとめていく作業は、初めての私にとってはかなり難しいものでした。何度か経験しているCMTメンバーたちも、昨年を思い出しながらも時には手が止まることがありました。それでも、こうした訓練経験は実際の災害では大いに役立ちます。大変有意義な訓練となりました。

ISO26000に沿った活動報告

人権

人権はすべての人に与えられた基本的な権利です。私たちは、ふれあうすべての人々の人格を尊重し、一切の差別やハラスメントをせず、個人のプライバシーを保護します。

関連するSDGs



- 多様性の理解・促進
- ハラスメント防止に向けた取り組み
- LGBT人権教育の実施

多様性を認め合う職場づくり

ダイバーシティ・マネジメントを学ぶ 人事総務部 研修課

生産年齢人口が減少する中で、社員の属性、価値観、働き方は多様化しており、多様性(ダイバーシティ)のある人材のマネジメントが必要です。

役員および部長職以上の経営層を対象としたセミナー「ダイバーシティ・マネジメント～女性社員活躍に向けて～」の開催を皮切りに、本社と羽田支社の管理監督者を対象とした「ダイバーシティ・マネジメント研修」を実施しました。

この研修は、2018-2020中期経営計画の重点戦略の中にある「女性社員の活躍推進」の取り組みとして、ダイバーシティ・マネジメントに対する理解を深めることを目的に開催されました。

研修には、(株)キャリアネットワーク 代表取締役社長 西村直哉様を講師としてお招きし、受講者はダイバーシティの重要性やその推進が妨げられる要因について講義を受け、グループワークやケーススタディを通して部下に対するマネジメントなどについて理解を深めました。

ハラスメント撲滅に向けて 人事総務部 給与厚生課

近年、精神疾患による労働災害の請求件数が急速に増加しており、認定件数も上昇傾向にあります。そして、労災認定された人に起こった業務上の出来事には、いじめ、嫌がらせなどのハラスメントが多く含まれているという実態があります。また、最近ではパワハラ、セクハラだけでなく、マタハラやモラハラ、ジェンダーハラスメントといったさまざまなハラスメントが問題視されるようになってきました。時代の変化に伴い、今後ますますハラスメントの種類の増加や、かつては当然と思われてきたことでもハラスメントとして訴えられることも予測されます。

人事総務部では、ハラスメントを正しく理解し、働きやすい

Voice

社員の声

- 女性社員、若手社員、シニア社員、自分たちがそれぞれを活かすことが働き方改革なのだと理解できた。
- 日々のコミュニケーションの重要性およびその時の接し方、バイアスが入らないように意識することが重要だと感じた。
- 今の若い人たちは、ダイバーシティやキャリアデザインなど学校で学んできており、基本的に自分たちと教育環境、考え方が違うことが理解できた。
- 生産年齢人口を具体的な数字で見ると改めて危機感を抱く。
- 過度な支援、気遣いはその人のやる気をそぐことも理解できた。

職場づくりに活用するため、管理監督者を対象に研修会を実施しました。これまでに91名が参加しています。



研修会の様子

労働慣行

会社の財産は何よりも人です。
会社の発展と個人の幸せの一致を図るため、
社員教育やメンタルヘルスを含む健康経営への
取り組みを実践します。

関連するSDGs



- 健康経営の取り組み
- 研修体制の強化、国内留学制度
- 女性活躍の推進
- 育児・介護休業法改正への対応

働きやすい職場づくり

三愛石油(株) 「健康経営優良法人2019」に継続認定

三愛石油グループは、心と身体の両面から継続的な健康づくりを目標とし、さまざまな健康経営への取り組みを行っています。グループ各社にはそれぞれ健康推進責任者および担当者を配置し、グループ全体で健康推進体制を整えています。その取り組みが評価され、三愛石油(株)は2019年2月に経済産業省と日本健康会議が選出する「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」に3年連続で認定されました。今後も、社員一人ひとりが自主的に健康保持・増進に取り組めるようサポートしていきます。



三愛石油グループ健康基本方針

私たちは、心と身体の健康を重要な課題として社員が働きやすい環境を整え、継続的で計画的な健康づくりを推進するとともに、一人ひとりが自らの健康意識を高め家族を含めた健康増進に積極的に取り組みます。

三愛石油グループ マネジメントフォーラム開催

2019年7月、20回目となるマネジメントフォーラムが開催され、全国から約210名のグループ社員が集まりました。このマネジメントフォーラムは社員向け株主総会とも位置付けられ、経営層が会社の現状や今後の方針を説明しグループ社員と共有することを目的としています。

今年は、10年先を見据えて変化する事業環境に対応するためにどのような取り組みが行われていくのか、各部門の担当

全国各地で健康イベントを開催 人事総務部 給与厚生課 健康推進室

2018年度の主な取り組みとして、東京・高知・佐賀の3事業所で健康イベント「グッドヘルスフェア」を開催し、グループ会社の社員を含む約140名が参加しました。本イベントは、体組成の測定や歯科検診などを行い、専門家による健康チェックを通して、社員の健康管理や生活習慣の改善を動機付けるとともに、職場全体でヘルスリテラシーを向上させることを目的としています。参加者は改めて自身の身体を知る良い機会となりました。

また、より多くのグループ社員が参加できるイベントとして、健康保険組合とコラボして推奨する健康管理アプリを利用したウォーキング大会を秋と冬に開催しました。運動習慣を身に付ける機会になるとともに、歩数上位者には健康グッズなどに引き換えることができるポイントを付与するなど、楽しみながら健康増進に取り組めるイベントとなりました。今後も継続していきます。



体組成の測定の様子



歯科検診の様子

役員によって説明されました。パネルディスカッションでは、参加者からの質問に答える形で、役員の若手時代の体験談や女性活躍推進などについて話し合われました。



塚原社長の挨拶



パネルディスカッションの様子

提案審査制度の活用 経営企画部

三愛石油(株)には、今までの方法にとらわれないゼロベースの視点から意見を提起できる「提案審査制度」があります。受理された提案は提案審査委員会で審査され、高く評価されたものは提案内容が実行されます。これまで数多くの提案が寄せられ、社員のアイデアが新たな取り組みにつながりました。

その中でも、「女性社員フォーラム開催について」の提案は、2017年より継続的に開催され、2019年で3回目となりました。

経営企画部では、提案審査制度を新たな会社を動かす原動力として考えています。社員の自由な発想や声を大切にし、より良い職場づくりを目指しています。

女性活躍の推進

第3回 女性社員フォーラムを開催

2019年7月、三愛石油(株)では3回目となる女性社員フォーラムが開催され、全国から40名の女性社員が集まりました。

午前の部では、元厚生労働事務次官で、現在は、津田塾大学客員教授、伊藤忠商事(株)社外取締役、住友化学(株)社外取締役、SOMPOホールディングス(株)社外取締役などを務める村木厚子様をお招きし、「仕事を楽しむ」と題して、ご自身の経験や仕事との向き合い方についてお話しいただきました。

ランチ懇親会には基調講演を行った村木様や役員も参加し、普段会うことのできない女性社員同士が交流を深めました。午後の部では、(株)キャリアネットワーク 代表取締役社長 西村直哉様より、ダイバーシティの重要性や基本的な考え方について、2018年、三愛石油(株)の管理職を対象に行った研修と同じ内容でご講演いただきました。

その後行われたワークでは、「一歩踏み出そう、動き出そう!」というスローガンのもと、現在と将来のライフスタイル・キャリア計画について考えたうえで、今年度実行する具体的な個人目標を「今年度の踏み出しプラン」として作成し、チームで共有しました。参加者は、自身のキャリアプラン・ライフプラン達成に向けて必要なアクションを整理し、一歩踏み出すための良い機会となりました。

フォーラム開催の趣旨

「自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる自律した女性社員を数多く輩出する機会を作る」



ご登壇いただいた村木厚子様



ランチ懇親会の様子



個人目標を作成し、チームで共有

Voice

社員の声

三愛アビエーションサービス(株)

金子 きよ子 さん

2016年に、「女性社員フォーラム開催について」という提案をしました。翌年、この提案が採用され、第1回女性社員フォーラムが開催されました。自分の提案が実現して、現在まで継続開催していただいていることは大変嬉しく、感謝しています。



Voice

社員の声

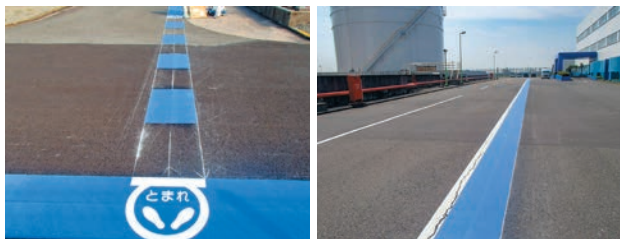
- 村木様の仕事についての考え方が参考になった。
- 今後どのように仕事に取り組んでいきたいかなどを棚卸しする機会をいただき、とてもありがたかった。
- いつも会えない人たちと話す機会があって良かった。
- 他の女性社員がどのように働いているかを知ることができ、驚きや学びが多かった。

労働安全の向上

歩行者レーンを設置

羽田支社

羽田支社では、監査や施設の見学等で多くのお客さまを受け入れています。タンクのある貯油基地内は、スペース上の問題や消防法令等の規制により歩道やガードレールを設置することができないため、従来、給油車両等の大型車が往来する車両通行帯を歩行せざるを得ませんでした。そこで、車両通行帯の脇に視認性および防滑性の高い材料を用いて路面標示を施し、“歩行者レーン(=安全通路)”を設置しました。これにより、来客者の安全を確保し、安心して施設の見学等をいただいています。これからもCSおよびリスク低減に向けた取り組みを推進していきます。



人材育成

社員の成長を支援する2018年度の研修実績

人事総務部 研修課

2018年度 研修実施内容

階層別研修		能力開発・スキルアップ選抜型研修		資格取得研修	社員教育 自己啓発	社員教育 本社勤務
役員 管理職	ダイバーシティ・ マネジメント研修	12/3 役員・部長 : 26名 3/11 本社管理職: 37名 3/13 羽田管理職: 33名	管理職 一般社員	マネジメント研修 (管理職・中堅・若手) 第1クール 9/13-14 : 12名 第2クール 2/21-22 : 12名 ※2018年度は若手社員を 対象に実施		
	アセッサー 養成研修	7/26-27 : 8名				
	新任管理者研修	8/27-28 : 16名				
役職による 研修	課長補研修	10/17-19 : 13名	一般社員	プレゼンテーション 技能向上研修 6/20-22 : 14名 財務分析研修 7/12-13 : 14名 トレーナー養成研修 11/21-22 : 12名 債権管理研修 5/17-18 : 12名 新入社員安全運転講習 4/23 : 12名	通信教育・eラーニング	英会話(応用型ベーシッククラス・選抜型ビジネスクラス)
	係長役研修	5/24-25 : 4名				
3年目 新入社員	3年目社員研修	1/16-18 : 16名				
	2年目社員研修	2/14-15 : 16名				
	新入社員 フォローアップ研修	11/15-16 : 15名				
	新入社員研修	熱海 4/2-8 : 17名 本社 4/11-20 : 17名				



3年目社員研修



新入社員安全運転講習



若手マネジメント研修

ISO26000に沿った活動報告

環境

エネルギーを取り扱う企業の責務として、資源とエネルギーの効率的利用を追求するとともに、環境負荷の抑制に取り組みます。また、汚染を未然に防ぐ仕組みを構築し継続的に運用します。

関連するSDGs



- 風力など発電事業者に対するメンテナンス支援(潤滑油販売部)
- 天然ガスへの転換による温室効果ガスの排出抑制(天然ガス部)
- 製品の開発・製造に使用した廃水の適正管理(化学品事業部)
- 環境安全監査による環境汚染の防止
- 「三愛石油オプリの森」体験型環境研修

環境に配慮した製品の拡販

省エネ型高効率ガス給湯器「エコジョーズ」

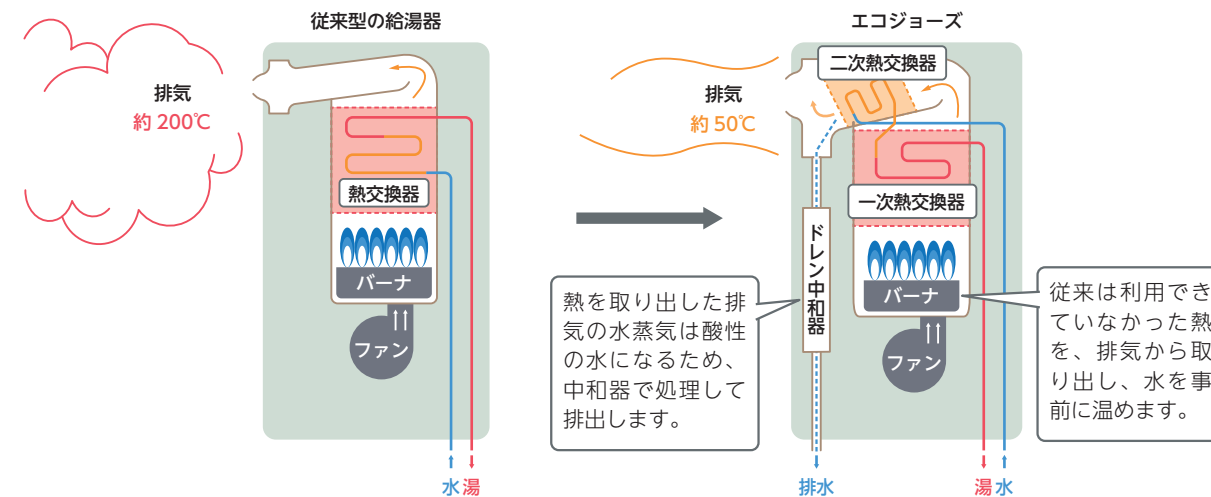
佐賀ガス(株)

佐賀ガス(株)では、CO₂の排出を抑える省エネ型高効率ガス給湯器「エコジョーズ」の普及に取り組んでいます。エコジョーズは、お湯を温める際に捨てていた排ガスの熱を再利用することが特徴の給湯器で、従来の給湯器よりCO₂を約13%削減することができます。佐賀ガス(株)では15年間にわたり1,000台を超えるエコジョーズを設置しました。これは、毎月7t弱(6,787kg)のCO₂を削減していることになり、これは杉の木5,801本がCO₂を吸収する量に相当します。

佐賀ガス(株)は、本社がある佐賀県が展開している「ストップ温暖化」への取り組みに深く共感し、社員一人ひとりが環境への高い関心を持って営業活動に取り組んでいます。この取り組みが評価され、佐賀県「ストップ温暖化」県民運動推進会議より表彰を受けました。今後もエネルギー供給を担う者の責務として、環境貢献活動に努めていきます。



従来型給湯器との違い



Voice

社員の声

佐賀ガス(株) 営業部 営業課

原口 明希久 さん

高効率給湯器は高額で、簡単にお買い上げいただけない商品です。そのような中で、多くのお客さまにエコジョーズをご購入いただき、環境保全に理解を示していただけていることに感謝しています。今後も、環境に配慮した製品の拡販を通して、地球環境に配慮し、社会的責任を果たしていきます。



エコジョーズ

ISO14001の取り組み

ISO14001の取り組み 三愛理研(株)

三愛理研(株)では、三愛石油(株)研究所とともに2003年にISO14001の認証を取得し*、環境保全への取り組みを継続してきました。現在は製造工程の見直しや、効率化を図ることによりエネルギーコストを削減し、製品の不具合をなくすことで資源の効率利用を進めています。また、緊急時の環境汚染対策として漏えい防止訓練などを定期的実施しています。

環境保全は、社員一人ひとりが高い意識を持って取り組む必要があります。三愛理研(株)では、「環境方針」を定め、環境への影響に配慮した事業展開を推進します。



ISO14001 登録証

※2011年にISO認定機関を変更



環境方針

環 境 方 針

当社は、オートケミカル製品、防菌防カビ剤等の製品・サービスの提供に対し環境影響に配慮した事業展開を従業員および関係者とともに推進します。

1. 環境マネジメントシステムの継続的改善
2. 環境汚染の予防
3. 環境関連法規制等・自主基準その他の法令事項の遵守
4. 廃棄物減量化、リサイクル、グリーン調達、省エネルギー等の環境改善
5. 環境保全に必要となる製品の開発
6. 地域社会への情報開示とコミュニケーションに努める

2019年 2月15日

三愛理研株式会社
代表取締役社長 齊藤 真一

環境汚染を未然に防ぐ

環境安全監査

三愛石油グループでは、LPガスの充てん所やサービスステーションなど多くの危険物施設を所有しているため、環境安全監査を実施し、継続的な改善に取り組んでいます。2018年度は244ヶ所で監査を実施し、318件の指摘事項が

あり、現在は全ての是正が完了しています。今後は施設を良好な状態に維持するため、関係部門と連携して保安レベルの向上を目指します。

2018年度 環境安全監査結果

関係法令	指摘件数	関係法令	指摘件数
消防法	147	労働安全衛生法	13
液石法	47	水質汚濁防止法	18
高圧ガス保安法	24	その他法令関連	17
廃棄物処理法	19	自主基準	33
		合計	318

環境安全監査の推移

	監査実施事業所数	指摘件数
2014 年度	291	310
2015 年度	269	416
2016 年度	253	210
2017 年度	248	343
2018 年度	244	318



計量機を確認する監査員



注油口の点検



ガス配管設備の確認

CLOSE UP

『三愛石油オブリの森』体験型環境研修

三愛石油グループは、化石燃料を取り扱う企業の責務として自然環境の保護に努め、森林再生事業に協賛しています。

2018年10月14日、協定森林のある高知県本山町において『三愛石油オブリの森』体験型環境研修が行われ、グループ各社から42名が参加し、山間部で間伐体験をしました。

その後、手作りの郷土料理をいただき、ブランド米が収穫される棚田で稲刈りを体験するなど、地元の方々との交流を深めました。実際に山に入り、身体を動かすことで環境保護の重要性を理解することができます。都市部で働く参加者にとって、豊かな自然に触れる貴重な機会となりました。

高知県、本山町および本山町森林組合と 「協働の森づくり事業パートナーズ協定」を締結

● 継続
2008年4月より

11年目

● 間伐体験者数

353名

● 協定を結んだ森

172.08ha

● 間伐により再生した
森が吸収したCO₂

3,030t

Voice

社員の声

● 間伐の意義や重要性について理解はしていましたが、実作業は予想していた以上に危険と重労働であり、身を以て理解することができました。

● 改めて自然や生命への畏敬の念を抱き、自然と調和して生きていくことの大切さを理解する貴重な機会となりました。間伐等のご指導や美味しい食事のご用意をしてくださった本山町のみなさまや関係者の方々に心より感謝いたします。

当日の様子



- 1 金田会長による開会挨拶
- 2 間伐作業を体験
- 3 地元の方々との交流
- 4 稲刈り体験
- 5 参加者の記念撮影

公正な事業慣行

誠実・正直、法令・ルールの順守を基本姿勢とし、公正な取引を通して社会に貢献します。
また、取引先の法令順守推進活動を積極的にサポートすることにより、事故や不祥事を未然に防止します。

関連するSDGs



- 保安ドクター研修により特約店の法令順守推進活動をサポート(ガス事業部)
- 環境安全監査による法令順守の徹底
- 倫理委員会、内部監査による不正・コンプライアンス違反の防止

法令・ルールの順守

倫理に関する「誓約書」

三愛石油グループは6月8日を「倫理の日」と定め、役員・全従業員が「倫理行動憲章」に基づき誠実さと倫理観を持って日々の業務にあたることを経営責任者に誓約しています。

倫理委員会

コンプライアンス推進の要として、倫理委員会を毎月開催しています。倫理委員会は、コンプライアンスに関する情報収集を行うとともに、倫理行動憲章を周知徹底し、コンプライアンス違反による事件・事故を未然に防止することを目的としています。倫理委員が中心となって自部門の年間教育計画を策定し、人権問題やハラスメントをはじめとするコンプライアンス教育を実施しています。

また、CSRの重点課題である「コンプライアンス意識の向上」への取り組みを強化するため、「コンプライアンス意識行動調査」を毎年実施しています。今後は対象範囲をグループ各社へ拡大し、グループ全体でコンプライアンス意識のさらなる向上を目指していきます。



倫理委員会風景

振り込め詐欺被害を未然に防止

国際油化(株)セブン-イレブン 狭山南入曽店

2019年1月、国際油化(株)オプリステーション狭山中央に併設するセブン-イレブン 狭山南入曽店において、アルバイトスタッフが、店内に設置されたATMの操作に困っているお客さまに声をかけたところ、会話の中で詐欺の疑いがあると感じ、店長へ報告。そのあと110番通報し、振り込め詐欺被害を防止しました。埼玉県警察狭山警察署よりその功労を称えられ感謝状が授与されました。



埼玉県警察狭山警察署より感謝状受領

取引先の法令順守推進活動

保安ドクター研修でガ斯特約店への情報提供 三愛オブリガス中国(株)

三愛オブリガス中国(株)では「保安ドクター研修」を毎年実施しており、2018年は8回目の開催となりました。LPガスは身近な家庭用燃料の一つでもあります。昨今のエネルギー自由化で消費者はさまざまな燃料との比較を行います。LPガス業界では、料金の透明化を含む販売指針の改定や法令改正がたびたび行われ、特に2016～2017年にかけて多くの法改正がありました。三愛オブリガス中国(株)では、できるだけ多くの特約店にこれら保安関係の情報や対処の仕方について解説や指導を行い、他燃料に負けない優位性についても含め、毎回講演を実施しています。

2018年は2016～2017年の法改正を受けて、管理すべき項目や行政の立入りで予想される調査内容の変化や、その変化した内容の解説を中心に講演しました。また、国が発表する保安方針や、全国の事故情報をもとにした中国地区における事故の特徴など、注意すべきところを特約店に解説し、事故防止にも努めています。



保安ドクター研修の様子

第8回保安ドクター研修内容

I.最近の保安行政

- 事故状況について(特に中国地区の現状と注意点)
- 平成30年度の保安指針、重点項目
- 料金の透明化、14条書面、取引適正化ガイドラインのその後

II.立入り検査準備について

- 平成30年度行政発表の立入り重点項目について
- どのように検査を受けるべきか
- なにを準備すべきか
- 注意点は?

羽田支社 資格取得一覧

羽田支社

羽田支社では、航空機給油施設の運営に万全を期すとともに、航空燃料給油業務における安全確保に努めています。
危険物を取り扱う事業所のため、必要資格は多岐にわたり

ますが、正しい知識と技術を持った社員が現場を支え、安全操業を実現しています。

羽田支社 資格取得状況

資格	取得人数
三級自動車シャシ整備士	7
二級ジーゼル自動車整備士	4
二級ガソリン自動車整備士	4
三級自動車ガソリン・エンジン整備士	4
消防設備士 甲種第1類	5
消防設備士 甲種第2類	4
消防設備士 乙種第1類	1
消防設備士 乙種第2類	1
消防設備士 乙種第6類	93

資格	取得人数
第1種消防設備点検資格者	7
計量士	5
第二種電気工事士	14
第三種電気主任技術者	2
有機溶剤作業主任者	53
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者(第2種酸素欠乏危険作業主任者)	40
玉掛け作業者	37
甲種危険物取扱者	4
乙種第4類危険物取扱者	157

※2019年3月末時点

消費者課題

安全確保を最優先課題と位置付け、消費者および顧客のリスクを最小限に抑えた製品・サービスを提供し、持続可能なエネルギーを提案します。積極的な情報開示に努め、お客さま満足の実現とコミュニケーションの促進を図ります。

関連するSDGs



- BCP対策の教育強化および給油施設の整備(羽田支社)
- 防腐・防カビ剤の開発・販売によりVOC排出量低減に貢献(化学品事業部)

サービスと品質の向上

接客サービスコンテスト開催 石油事業部

2019年7月、石油事業部では接客サービスコンテストの決勝大会を開催しました。14回目となる今年は、「早く・簡単に・誰でも・美しく」がコンセプトである「ARAWZANS※」をテーマにコンテストを実施しました。予選大会を勝ち抜いた7名の選手が実技部門で迅速かつ丁寧な施工技術を披露。セールストーク部門では選手それぞれが創意工夫を凝らし、お客さまの心を掴みました。今後もサービス向上に向けた取り組みを展開し、顧客満足度を追求していきます。



ARAWZANS実技部門



セールストーク部門



最優秀賞 受賞



多くの方々に支えていただき、実技部門、セールストーク部門ともに何度も練習を重ね、決勝大会に臨みました。おかげさまで本番は、普段通りに自分らしさを発揮することができました。今回身に付けた技術を持ち帰り、SSのスタッフに伝えて会社全体の接客レベル向上につなげていきたいと思います。

国際油化(株)オペレーション瑞穂通

小澤 和也 さん

※「ARAWZANS」とは、三菱石油(株)が開発した高級洗車コーティングシステム

ステークホルダーとともに

北海道ガス(株)が進めるユニークなエネルギーサービス事業の構築に貢献 潤滑油販売部

潤滑油販売部では、2018年6月より北海道ガス(株)北ガス石狩発電所へ合成ガスエンジンオイルと冷却水の納入を開始しました。また、2019年6月からは北海道ガス(株)北ガス札幌発電所へ同じく合成ガスエンジンオイルと冷却水の納入を開始しています。

この2ヶ所のガスエンジン発電所は、北海道ガス(株)にとって同社が目指す総合エネルギーサービス事業を実現するための根幹となる事業です。

ガスエンジン発電はエンジンオイルを消費しながら発電しますが、同発電所は合成ガスエンジンオイルを数回に分けて補給しなければなりません。電力小売りへ参入し、分散型エネ

ギー社会の構築を提言する同社にとって自社電源の安定稼働は必須です。当社は地吹雪など寒冷地特有の物流課題を考慮した供給体制を構築し、発電所の安定稼働に貢献しています。

また、昨年北海道で発生したブラックアウトの際は、営業運転開始前の北ガス石狩発電所を急遽稼働させ、非常時に分散型ガスエンジン発電が有効であることが図らずも実証されました。

潤滑油販売部はこれまで築いてきた潤滑油管理のノウハウを活かし、今後さらに発展していくエネルギーサービス事業の構築に貢献していきます。



北海道ガス(株) 北ガス石狩発電所

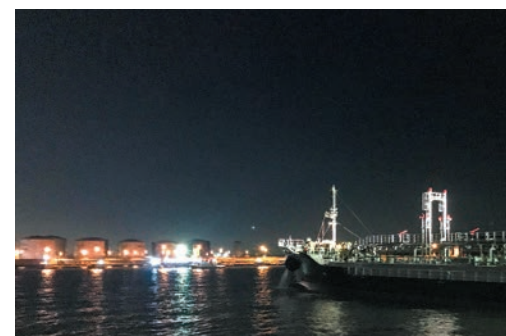
羽田空港 航空燃料油送船による夜間着船の実施 羽田支社 施設運営部 油送課

羽田空港では発着便の増加に伴い、航空燃料の取り扱い数量も年々増加しています。油送船による月間の受け入れ数量は約30万KL、着船する船数は約70隻で、ほぼ毎日受け入れています。海上輸送は天候に左右されることも多く、悪天候時には積み地での荷役や船の航行ができず受け入れに影響が出ます。この影響は航空燃料の在庫逼迫に直結し、早期の在庫回復に向けた体制や迅速な対応が求められます。

そのような中、羽田支社では航空燃料の安定供給、在庫確保のため、2018年3月末に海上保安庁より、危険物専用岸壁としては国内で初めて、内航船である引火性危険物積載船の夜間着船の承認を得ました。これにより、昼夜間、時間を問わず受け入れを行うことが可能となり、受け入れ体制の強化を図ることができました。

2019年4月4日には石油元売り会社をはじめ関係各社協力のもと、初の夜間着船を安全かつ無事に行いました。

今後も羽田支社はお客さまに安心と満足を与えるべく航空燃料の安定供給、在庫確保のため、安全で確実な給油施設の運営に努めていきます。



着船風景

自家用給油所設置をサポート 石油事業部

近年、大きな災害が頻発している日本において、緊急時にいかに燃料を確保するかということは大きな課題となっています。そこで石油事業部直売部では、お客さまへ自家用給油所の設置を提案しています。自家用給油所を設置することにより、自社で燃料を保管する貯蔵タンクおよび給油設備を所有することで災害時でも必要な時に必要な量を給油することが可能になります。

(株)リコーは、東日本大震災で輸送燃料である軽油が入手困難になったため約2週間、製品の配送ができない状態となりました。以降、BCP(事業継続計画)への関心が高まり、2016年12月に生産関連事業所であるサービスパーツセンターへ災害対応型の自家用給油所を設置しました。設置に伴い、設計と施工は三菱プラント工業(株)が、燃料の供給は三菱石油(株)が行い、現在も安定運用に向けてサポートを継続しています。



(株)リコー サービスパーツセンター自家用給油所

Voice

ステークホルダーの声

油送船船長

夜間着船用に配置した着船バースを示す照明機器、航路を示す導灯など、船の操縦室からの視認性も良く、夜間着船による不安を感じることなく安全に着船することができました。



船上ミーティング

Voice

ステークホルダーの声

SBSリコーロジスティクス(株)

鈴木 扶美男 様

東日本大震災の経験からBCP対策への関心が高まり、自家給油所設置に至りました。2016年12月に運用を開始してから現在まで、定期的に点検と訓練を実施し、緊急事態への万全の対策を講じています。自家給油所設置は全国的にも稀なケースですので、今後とも安定運用にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



コミュニティへの参画及び コミュニティの発展

事業を通して社会に貢献する中で、
良き企業市民として社会とのコミュニケーションを促進し、
地域社会貢献活動に参画します。

関連するSDGs



- 危機管理委員会による車両事故撲滅の取り組み
- 佐賀工業専門学校との教育連携
- 災害時の支援活動(羽田支社)
- 地域・社会貢献活動

お客さまに愛される企業を目指して

感謝祭を開催 (株)三神*

2018年11月、(株)三神は日頃のお客さまへの感謝の気持ちを込めて感謝祭を開催しました。2日間で約2,000名のお客さまにご来場いただき、ショールームにて洋菓子作り教室の開催や、神埼市内の保育園児が描いた絵画の展示、最新ガス機器の特別価格での販売などのイベントが行われ、大いに賑わいました。



最新ガス機器を特別価格で販売

Voice

グループ会社 社長メッセージ

(株)三神
石川 博 社長

当社は、地域密着型の企業として、「お客さまに安心・信頼・満足をご提供すること」を使命として、お客さまに寄り添った営業活動を買っています。これからも地域に寄り添った取り組みを展開し、さらなる成長を目指します。

※2019年4月に(株)ニシムラと合併し、「三菱オブリガス三神(株)」に商号変更しました。

災害時の復興支援

関西国際空港 台風21号被害の復旧応援 羽田支社

台風被害復旧のため、羽田支社では関西国際空港へ燃料回収車とハイドラントバルブを無償貸与しました。

2018年9月4日、台風21号が関西国際空港を直撃し、大きな被害が発生したことはまだ記憶に新しいものです。被害は空港の1期島全体におよび、給油施設のみならず、関係車両にも水没の被害がありました。

その数日後、関西エアポート(株)、新関西国際空港エンジニアリング(株)(現関西エアポートテクニカルサービス(株))より、給油施設の早期復旧および燃料品質検査のために、



燃料回収車



ハイドラントバルブ10基



関西エアポートテクニカルサービス(株)より
御礼の訪問を受けました

「燃料回収車」と「ハイドラントバルブ」を貸してもらえないかとの問合せがあり、これに応えました。先方からは、当社の迅速な対応と燃料回収車のその後の活躍に対し、感謝の意を伝えられました。

今後も、他空港において万一にもこのような不測の事態が発生した場合は、当社として可能な限りの支援を行うとともに、社内においても常日頃からの訓練と危機管理を怠ることなく、安全で確実な施設運用を継続していきます。

地域社会とともに

さくら市立上松山小学校2年生の社会見学 国際油化(株)オプリステーショングリーンライン箱森

2019年6月、国際油化(株)オプリステーショングリーンライン箱森に、栃木県さくら市立上松山小学校2年生の児童が社会見学にやってきました。「地域探検」と題し、自分たちの住んでいる地域の身近な仕事を見学することを目的として実施され、当日は児童からの質問に答えた後、洗車やオイル交換、タイヤ交換を実演しました。後日、児童から手紙が届き、「洗車を見せてくれてありがとうございました」「ガソリンが入っているタンクも凄かったです」という感想が寄せられました。これ

からも地域に密着した取り組みを継続していきます。



洗車の様子を見学



児童からお礼の手紙

歳末チャリティ事業へ協力 キグナス石油(株)

2018年12月、キグナス石油(株)は清瀬市社会福祉協議会が開催している「歳末チャリティ事業」に協力しました。この催しは、企業からカレンダー、手帳、その他試供品や販売促進グッズ等が提供され、募金された地域の方にお分けすることで多くの方に「歳末たすけあい募金」へ無理なく参加いただくものです。寄せられた募金は、児童養護施設退所児の自立支援、生活困窮者への緊急支援、がん患者、障がい者(児)の社会参加支援など広く助け合いに活用されています。

また、カレンダーの一部は、社会福祉施設への配布や石巻市社会福祉協議会を通じ被災世帯へも送付し、余すことなく活用されました。

キグナス石油(株)はこの趣旨に賛同し、ささやかではありますが2012年より毎年弊社カレンダー等を清瀬市社会福祉協議会に提供し続けてきました。引き続き、社会貢献につながる活動を展開していきます。



イベントの様子



「第7回殿町夜光クリーン大作戦」へ参加 天然ガス部 川崎エネルギーセンター

2018年11月、川崎市が主催するごみ拾い活動「殿町夜光クリーン大作戦」に三菱石油(株)天然ガス部川崎エネルギーセンターが参加しました。7回目となる今回は「キング スカイフロント」地区までエリアを広げ、周辺の立地企業や町内会が新たに加わったことから、総勢51団体、1,080名が参加する大きな活動となりました。

今回初めて参加した当社の社員には清掃活動の達成感と、地域コミュニティとのふれあいの大切さを感じる大変良い機会になりました。

記事は川崎市広報ホームページにも掲載されておりますので是非ご覧ください。

※HP検索ワードは「殿町夜光クリーン大作戦」



収集したごみ

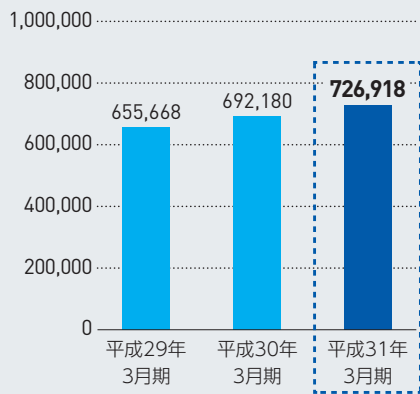


清掃の様子

財務データ

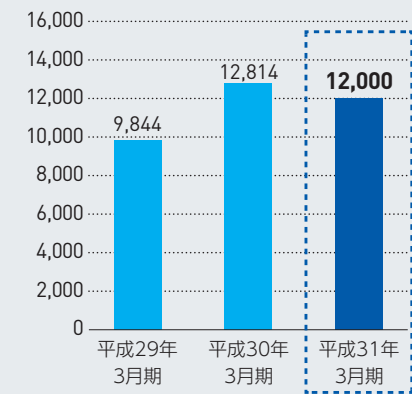
売上高 **726,918** 百万円

(単位:百万円)



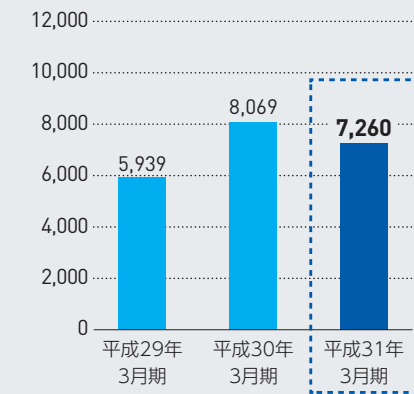
経常利益 **12,000** 百万円

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益 **7,260** 百万円

(単位:百万円)



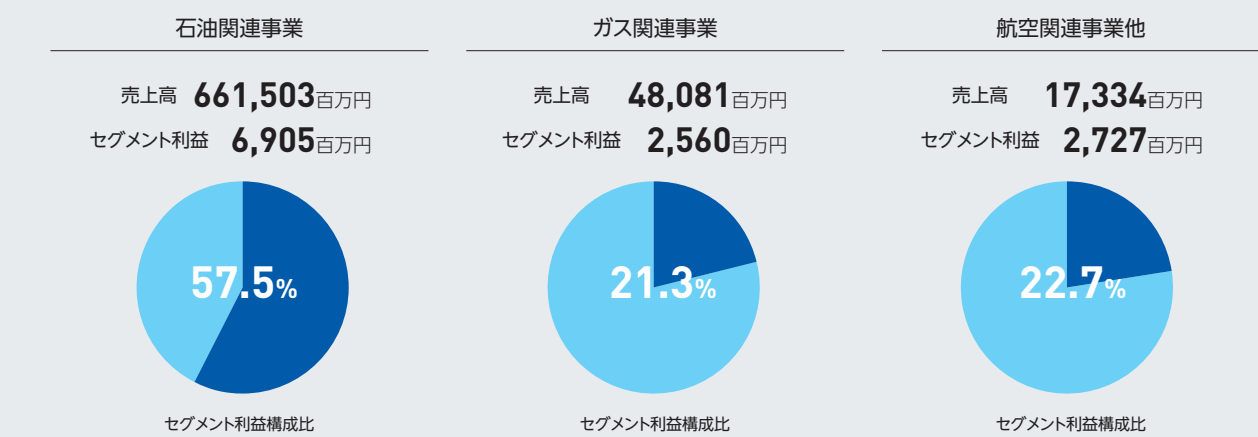
5年間の主要な経営指標等の推移

決算年月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月	平成31年3月
売上高 (百万円)	883,856	746,658	655,668	692,180	726,918
経常利益 (百万円)	6,332	7,119	9,844	12,814	12,000
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	3,918	5,340	5,939	8,069	7,260
包括利益 (百万円)	10,249	△313	7,651	10,621	6,258
純資産額 (百万円)	81,039	76,943	82,750	93,460	96,941
総資産額 (百万円)	197,609	180,157	188,499	211,124	221,638
1株当たり純資産額 (円)	1,085.15	1,066.26	1,155.02	1,268.53	1,325.27
1株当たり当期純利益 (円)	53.33	74.51	83.96	114.54	103.61
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	40.3	41.9	43.2	42.3	41.7
自己資本利益率 (%)	5.2	6.9	7.6	9.5	8.0
株価収益率 (倍)	14.61	10.97	11.23	13.66	8.77
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	6,281	2,825	8,511	18,943	21,686
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△3,050	△1,253	△3,503	△3,563	△5,424
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△6,754	△8,360	△4,716	△1,054	△6,248
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	38,714	31,925	32,217	46,542	56,551
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	2,130 [1,680]	2,150 [1,506]	2,081 [1,335]	2,058 [1,216]	1,999 [1,207]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。
3. 「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっている。

連結セグメント別事業概況(平成31年3月期)

※ セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。



当社グループの使用人の状況(平成31年3月31日現在)

事業	使用人数
石油関連事業	759 (1,100)名
ガス関連事業	635 (61)名
航空関連事業他	537 (41)名
全社(共通)	68 (5)名
合計	1,999 (1,207)名

(注) 1. 使用人数は就業人数であり、臨時雇用者数は()内に当連結会計年度の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている使用人数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

環境負荷データ

INPUT	2017年度	2018年度
エネルギー使用量 (kl)	8,111 (原油換算)	8,350 (原油換算)
電力 (千kWh)	19,612	21,199
ガソリン (kl)	763	710
軽油 (kl)	1,372	1,177
灯油 (kl)	278	241
LPG (t)	269	290
都市ガス (千m³)	122	186
その他 (kl)	303	276
水使用量 (千m³)	491	250
コピー用紙使用量 (t)	41	42

OUTPUT	2017年度	2018年度
CO₂総排出量 (t-CO₂)	17,400	17,421
電力 (t-CO₂)	9,519	10,121
ガソリン (t-CO₂)	1,771	1,649
軽油 (t-CO₂)	3,547	3,041
灯油 (t-CO₂)	692	601
LPG (t-CO₂)	806	869
都市ガス (t-CO₂)	272	416
その他 (t-CO₂)	794	723
廃棄物発生量		
特別管理産業廃棄物 (t)	471	544
産業廃棄物 (t)	1,044	808
事業系一般廃棄物 (t)	692	356

※エネルギー使用量の「その他」は、川崎エネルギーセンターの自家使用分です。
※エネルギー使用量の原油換算は、省エネルギーセンターHP「エネルギー使用量の簡易計算表」を利用しています。
※CO₂排出量は「算定・報告、公表制度における算定方法・排出係数一覧 平成22年3月改正後」を、電力については、平成28年度の電気事業者別排出係数(環境省・経済産業省)を使用して計算しています。



田中 宏司

一般社団法人 経営倫理実践研究センター
特別首席研究員
東京交通短期大学名誉教授

日本銀行等勤務の後、2002年～06年立教大学大学院教授、
2008年～13年東京交通短期大学学長・教授、元「ISO/SR国内委員会」委員、元「ISO26000」JIS化本格委員会」委員等。著書「コンプライアンス経営」「CSRの基礎知識」等多数。

■今回の特徴と高く評価できること

今回の三愛石油グループCSR報告書は、経営理念である三愛精神を軸に、グループ全体で持続可能なより良い社会の発展に貢献するCSR活動と事業活動の姿が、SDGsを意識した取り組みとして具体的に分かりやすい形で開示されています。

第1に、トップコミットメントでは、経営理念に基づき10年先を見据えて新しい価値を生み、事業活動を通じて社会に貢献することで企業使命を果たすと明示しています。見開きページに、代表取締役会長と代表取締役社長がトップコミットメントを宣言する形式は、大変斬新で魅力的です。

第2に、CSR活動の総括と今後の重点課題を一覧表にまとめています。具体的には、ISO26000の7つの中核主題別に2018年度の活動実績を分析し、次年度へと今後の課題を提示したうえで、7つの領域についてSDGsの目標を具体的に関連付けています。この一覧表は、グループを挙げて今後のCSR活動を推進する際の「道標」になると評価できます。

ご意見をいただいて

本年も一般社団法人 経営倫理実践研究センター 特別首席研究員の田中宏司先生に弊社グループのCSR報告書ならびに取り組みについて評価をいただくことになりました。貴重なご意見をいただいたことに心より御礼申し上げます。

弊社グループでは、広くステークホルダーのみなさまにCSRの活動を理解していただくため、社会的責任に関する国際ガイドラインISO26000を活用し、7つの領域に基づいて活動をまとめています。2018年度のCSR重点課題への取り組みについては専用ページを設け、特集ページには「天然ガス事業のバリューチェーン」を掲載しました。バリューチェーン上にある社会課題をSDGsの開発目標と関連付け、エネルギー供給を担う企業として社会の持続的発展に貢献している取り組みを紹介しました。

今後は田中先生のご意見にあるように、事業活動を通じた社会貢献を加速させるため、グループ全体でSDGsの理解を深めることが重要と考えています。そして、社会課題を的確にとらえ、社会の持続的発展に貢献するために自分たちに何ができるのか議論を深め、ステークホルダーの期待に応えてまいります。



三愛石油株式会社
取締役CSR推進部長
佐藤 孝志

第3に、特集「天然ガス事業のバリューチェーン」では、安定供給のためのパイプライン供給、事故や災害に備えての合同防災訓練の取り組み、エネルギーサービスなど全体の仕組みを図解し説明しており素晴らしいです。さらに、関連するSDGsの項目を明示しており、時代の要請に対応しています。

第4に、ISO26000に沿った活動報告では、7つの中核主題別に具体的な図解と現場写真を活用しているのに加えて、ステークホルダーの声、社員の声等も紹介しており、臨場感あふれる理解しやすい内容です。さらに、活動実績と紐づけたSDGsの目標を分かりやすく掲げています。また、森林再生事業に協賛して、『三愛石油オプリの森』体験型環境研修を実施し成果を上げています。

■今後さらなる発展に期待すること

御社は、すでにSDGsが求める社会課題と事業領域における影響を理解したうえで、優先順位をつけて取り組んでいます。そこで、次の点にも配慮されると今後さらなる発展が期待できます。

第1に、SDGsの17の目標には具体的目標として169のターゲットがありますので、これを分析して取り込むことにより、各部署はこれまで以上に挑戦し幅広い取り組みが実現できるでしょう。

第2に、SDGsの実践に際し社会課題に応じて、グループ企業、NPO、大学、自治体等と協働することにより、社会へ新しい価値を提供し、10年先を見据えた社会の持続的な発展への貢献が期待できます。

編集方針

本報告書は、三愛石油グループの2018年度のCSR(企業の社会的責任)活動をステークホルダー*のみなさまに分かりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

※ステークホルダー

お客さま、取引先、株主、地域社会、従業員ほか、
三愛石油グループを取り巻く人たちのこと。

報告対象範囲

三愛石油(株)の活動を中心に、三愛石油グループ全体やグループ各社の活動について取り上げています。

報告対象期間

2018年度(2018.4.1～2019.3.31)を基本としていますが、一部2019年度の発行時点までの事象も含んでいます。

発行時期

2019年11月(次回発行予定 2020年9月)

参考にしたガイドライン

国際標準化機構「ISO26000:2010」環境報告ガイドライン 2018年版

免責事項

本報告書には、将来予測も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性があります。



三愛石油(株)ホームページ

<http://www.san-ai-oil.co.jp/>

Obbli ネーミングの語源

obbligare(ラテン語) : 結びつける

obbligato(イタリア語) : 旋律的な伴奏

obbligo(イタリア語) : 感謝の気持ち

「Obbli(オブリ)」は、三愛石油が平成14年に導入したコーポレートブランドです。変化の激しいエネルギー業界の中で、三愛石油グループは「顧客、地域、社会とともに、良い関係を結んでいくことを決意し「エネルギーサービスNo.1カンパニー」を目指します。そのために、お客さまからいただいた「ありがとう」の言葉を大切に受け止め、自らのエネルギーに変えて地域社会の発展のために邁進していきたいと願っています。この「Obbli(オブリ)」は三愛石油グループが提供する高品質な「エネルギーサービス」の象徴であると同時に、未来への希望と誓いのシンボルでもあります。

お問い合わせ先：

三愛石油株式会社
CSR推進部

〒100-8154

東京都千代田区大手町二丁目3番2号

TEL：03-6880-3812

FAX：03-6880-3033

